



桂川っ子

VOL.35



「体験を通して学ぶ」

桂川町教育委員会

教育長 穂坂 和義

2カ月ほど前のことですが、昨年12月3日に住民センターにおいて、桂川小・桂川東小6年生合同による「王塚太鼓」の演奏発表会がありました。総合的な学習の時間の一環として毎年この時期に行われているもので、今年で10回目を迎えます。

太鼓の演目は同じでも、学級ごとに掛け声や強弱の付け方などを工夫することで独自性が出て、参観していた保護者や各学校の5年生から、その都度拍手が送られていました。次の文は、この取り組みに参加した6年生のある児童が、指導してくれた桂川町役場社会教育課の野村課長に書いたお礼の手紙の一節です。

太鼓とは一人でやれるものではなく、みんなで協力してやるものだと思います。しかも誰か一人でもズレた

らおかしな音になるので難しかったです。最初は、自信がなかったけれど、練習していくうちに出来るようになりました。本番でも失敗せずにできて自信ができました。王塚太鼓では、「みんなで協力すること」を学びました。このことが来年の6年生にも伝わればいいなと思いました。

全員の感想文を紹介できないのが残念ですが、ほとんどの児童がやり遂げた喜びや協力することの大切さ、やればできることを実感したことなどを書いていました。

「やったことのないことはできない」「教わったことのないことは分からない」「練習しなければ上手にならない(体得できない)」

これらは、教育の原則と言われている事柄ですが、子どもたちは王塚太鼓の体験を通して、自分に対する自信のみならず、協力することの素晴らしさも学んだようです。

「一年を振り返って」

桂川幼稚園 園長 長野陽一

本年度、桂川幼稚園が重点的に取り組んだ、花や野菜の栽培活動による自然とのふれあいについて報告します。

この取り組みでは、まず、花壇や畑を整備し、そして種を蒔き、苗を育てるところから始めました。

取り組みを始めて間もなく、畑では夏野菜のキュウリ、トマト、レタスなどが収穫でき、秋にはサツマイモ、落花生、ジャガイモを収穫。そして冬野菜では、大根、白菜などたくさん野菜が収穫できました。

植木鉢での一人一鉢の栽培活動にも取り組みました。園児たちは、一人一人名前の書かれた自分の鉢でサニーレタスやミズナを大事に育て、収穫して家庭に持ちかえりました。

花壇では、夏はマリーゴールドやアサガオ、ひまわりなどたくさん花が幼稚園を囲みました。今、花壇やプランターでは、春に向けてパンジー、キンセンカ、デージー、チューリップなどが根付き、卒園式や入園

式の頃には、きっときれいな花を咲かせていることでしょう。

これら一連の栽培活動を通して、子どもたちは一段とたくましく成長しました。水やりなどの世話や収穫時のしっかりと根を張った野菜との格闘。そこに自ら関わることで、植物の成長や植物の持つ生命力を肌で感じ取ることができました。

また、自分たちが育てたものを家庭に持ち帰り、家族と一緒に食することで収穫の喜びだけでなく、周りの人にも喜んでもらえる心地よさもすっかり味わうことができたと思います。

終わりに、年長組は3学期に入り、小学校進学に向けて給食試食を行っています。その際に、野菜嫌いの子がかなり目につきます。今後は、栽培活動だけでなく、家庭との連携による食育にも重点をおいた取り組みを進めていきたいと思えます。

